

出資法人等「経営改革計画評価表」

1. 団体の基礎情報(平成22年4月1日現在)											
団体名	社団法人宇都宮市シルバー人材センター			設立年月	昭和56年1月23日						
所在地	宇都宮市中央1丁目1-15			代表者	理事長 石川 元信						
ホームページアドレス	www.sjc.ne.jp/utsunomiya/index.html			市所管課	保健福祉部高齢福祉課						
基本財産(資本金)	—			主な出資者	出資額		出資割合				
市出資額	—			—	—		—				
市出資割合	—			—	—		—				
設立目的等	定年退職者等の高齢退職者の希望に応じた就業で、臨時的かつ短期的なもの又はその他の軽易な業務に係るものの機会を確保し、及びこれらの者の生きがいの充実、社会参加の推進を図ることにより、高齢者の能力を生かした活力ある社会作りに寄与する。										
2. 団体の組織・人員情報(平成22年4月1日現在) ※括弧の数は、理事と職員の兼務で、内数											
役職員数	役員数	理事	1			1			0		
		監事	0			0			0		
	職員数		常勤	うち市OB	うち市派遣等	非常勤	うち市OB	計	2		
	計		10(1)	2(1)	0	6	0	16(1)	合計 35(1)		
常勤職員の平均年齢(歳)	—		常勤職員の平均年収(千円)	—		常勤職員の削減数(対19年度当初比)	0人				
常勤職員の平均年齢(歳)	50.5		常勤職員の平均年収(千円)	6,072		常勤職員の削減率(対19年度当初比)	0.0%				
評議員会の有無	無		包括外部監査の対象の有無	有		議会への報告の有無	無				
情報公開制度の有無	有		個人情報保護体制の有無	有							
3. 経営改革に関するこれまでの取組(平成16~18年度の3年間の主なもの)											
<ul style="list-style-type: none"> ・団体の基本業務である受託事業の実績向上を目指し、会員就業率の向上(17年度65.3%→19年度70.6%)と受託件数の向上(17年度7,010件→19年度9,398件)に取り組んだ結果、国庫補助金ランクBからAへ昇格した。 ・財政運営の健全化を目的に、年会費の増額(1,000円→2,000円)を行なった。 ・情報公開の一環として、平成17年度にホームページを開設した。 											
4. 経営改革計画の取組結果等(平成22年4月1日現在)											
No	改革項目	改革目標	取組結果(19~21年度)								
1	公益事業比率の向上	21年度末80.0%	団体を取り巻く制度(派遣事業への取組)の見直しや規制緩和措置(指定管理者制度の施行)など環境の変化に困難をきたしたところがあるが、公益事業比率を伸ばすべく事業の拡大に努めてきた 19年度末 58.9% 20年度末 76.7% 21年度末 77.5% (国の公益法人制度改革を踏まえ、平成20年度決算から、事業に係る人件費等については、事業費に含む。)								
2	市財政依存の縮小(補助金・負担金)	現行水準の維持	19年度決算 54,870千円 20年度決算 62,835千円 21年度決算 46,817千円								
3	市財政依存の縮小(委託料・指定管理料)	現行水準の維持	市民に人気のある除草、植木の剪定、植木の伐採業務等を拡充し、事業の拡大に努めている 19年度決算 185,594千円 20年度決算 191,405千円 21年度決算 195,254千円								
4	運転資金の確保	21年度末 7,000千円	財政運営資金積立基金規程制定 積立額 19年度末 2,325千円 20年度末 4,662千円								

No	改革項目	改革目標	取組結果(19~21年度)
5	退職金制度の見直し	規程の制定と基金の確保	新規規程制定には至らなかった。
6	効率的な事業運営	一体的, 効果的な体制の構築	上河内・河内事業所を統合し, 北部事業所として新たに開設
7	職員数・給与情報の公開	ホームページでの公開	準備中
8	広報の充実	ホームページ等の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ刷新 ・新パンフレット作成
9	公益法人制度改革への対応	公益社団法人の認定取得	<ul style="list-style-type: none"> ・栃木県及び栃木県シルバー人材センター連合会等の開催する研修会に参加 ・23年度の公益社団法人への移行申請を目指し, 準備中

※平均年齢, 平均年収, 削減数の計算に当たっては, 市からの派遣職員等は除いています。

5. 財務状況					
項目	単位	平成18年度 (決算)	平成19年度 (決算)	平成20年度 (決算)	平成21年度 (決算)
I. 貸借対照表					
A 資産合計(①+②)	千円	112,145	147,670	147,281	156,086
①流動資産	千円	43,185	53,926	48,656	53,440
②固定資産	千円	68,960	93,744	98,625	102,646
B 負債合計(③+④)	千円	108,242	126,873	124,476	137,733
③流動負債	千円	35,680	46,115	39,840	46,173
④固定負債	千円	72,562	80,758	84,636	91,560
うち有利子負債	千円	0	0	0	0
うち損失補償契約に係る債務残高	千円	0	0	0	0
C 負債及び正味財産の合計(B+⑤)	千円	112,145	147,670	147,281	156,086
うち正味財産(⑤)	千円	3,903	20,797	22,805	18,353
II. 収支計算書					
D 収入合計(⑧+⑨)	千円	536,624	784,461	729,482	673,640
⑥事業収入	千円	452,551	624,234	579,508	537,071
⑦事業外収入	千円	77,782	152,722	142,163	127,753
⑧当期収入合計(⑥+⑦)	千円	530,333	776,956	721,671	664,824
⑨前期繰越収支差額	千円	6,291	7,505	7,811	8,816
【補足項目】⑩収入合計に占める市財政負担額	千円	168,163	240,464	254,240	242,020
うち補助負担金	千円	28,300	54,870	62,835	46,766
平成18年度ベースの補助負担金	千円	28,300	54,870	62,835	46,766
新たに増加した補助負担金	千円		0	0	0
補助負担金の削減率(対18年度比)	%		+93.9	+122.0	+65.3
うち委託料(指定管理料を含む。)	千円	139,863	185,594	191,405	195,254
平成18年度ベースの委託料	千円	139,863	139,863	139,863	139,863
新たに増加した委託料	千円		45,731	51,542	55,391
委託料の削減率(対18年度比)	%		+0.0	+0.0	+0.0
E 支出合計(=⑪+⑬+⑮)	千円	529,118	776,650	720,666	666,374
⑪事業支出	千円	427,399	586,848	552,841	516,348
うち自主事業支出(⑫)	千円	407	2,290	2,839	2,708
うち公益事業支出(⑬)	千円	317,501	457,233	552,841	516,348
⑭管理費支出	千円	70,115	116,301	109,918	95,114
⑮その他の支出	千円	31,604	73,501	57,907	54,912
【補足項目】⑯支出合計に占める人件費総額	千円	69,316	111,265	122,131	97,427
F 当期収支差額(⑧-E)	千円	1,215	306	1,005	-1,550
G 次期繰越収支差額(D-E)	千円	7,506	7,811	8,816	7,266
III 財務指標					
収支比率(⑧/E)	%	100.2%	100.0%	100.1%	99.8%
自主事業比率(⑫/⑪)	%	0.1%	0.4%	0.5%	0.5%
公益事業比率(⑬/E)※	%	60.0%	58.9%	76.7%	77.5%
市財政負担比率(⑩/D)	%	31.3%	30.7%	34.9%	35.9%
人件費比率(⑯/E)	%	13.1%	14.3%	16.9%	14.6%
6. 団体の評価・今後の課題					
【評価】					
<ul style="list-style-type: none"> ・シルバー人材センター事業は、多くの高齢者が就業し、健康でいきいき生活することで、社会的課題である医療、介護財政の軽減に寄与するとともに、人の生き方、有り方を若い世代に身をもって示すことで、高齢者への「尊敬」や「人間らしさ」といった失われつつある精神的な豊かさの再発見にも貢献している。 ・景気後退の進む中、平成21年度は、どんな細かい仕事でも、また、手間暇かかる仕事でもセンター業務として受注し、多くの会員に仕事を分かち合おうとした結果、就業率は前年度比6.1ポイントアップした。 ・女性会員の増員と仕事の開拓を目的に女性部会を設置し、「手作りせっけん」の制作販売や清掃ボランティアを行うことで、わずかながら女性会員の数が増加した。 ・仕事の受注を増やすため、会員自ら就業相談会を開催するなど会員が積極的に事業へ取り組む体制が整いつつある。 					

【今後の課題】

- ・長引く雇用経済の低迷により事業実績の減少傾向はここ数年続くものとみられるが、人の手を介さなければならぬ業務（植木の手入れ、襖・障子の張替、筆耕、内職、草取り等）を中心に地道に就業開拓を進めていく必要がある。
- ・シルバー人材センターの運営は、制度上、事業の実施に伴う事務費収入等だけでは困難であり、国・県・市からの助成は必要であり、安定した運営を確保し公益性を発揮していくためには、事業の拡大はもとより今後とも行政の支援・協力は不可欠である。
- ・シルバー人材センター事業の目的や仕組みを正しく理解してもらうための広報活動を積極的に行い、事業の拡充に努める必要がある。
- ・公益法人制度改革による「公益社団」への移行とその後の法人運営（遵守事項）体制の整備を図る必要がある。
- ・懸案事項である、職員の退職金制度の見直しについて、引き続き、検討を進める必要がある。

7. 所管部局の評価・今後の課題

【評価】

- ・企業からの受託件数減により全体的な契約実績が減少したものの、就業開拓や広報活動などの地道な取り組みにより筆耕等事務や剪定等技能に関する事業実績を伸ばすなどの成果を上げている。
- ・オリジナル商品の開発など独自事業への積極的な取組及び女性会員の増加に向けた業種の開拓に努め、成果を上げている。
- ・会員数に対する年間就業実人員は増加傾向にあり、就業率は、平成21年度において78.7%と、18年度から11.3ポイントの増となっている。「共働・共助」の理念のもと、より多くの高齢者に就業機会が提供できるよう、各種事業において「わかちあい就業」に努め、成果を上げている。

【今後の課題】

- ・事業収入を増やすため、受託事業の拡大及び就業会員率の向上に向け引き続き運営体制の強化を図る。
- ・団塊世代の受け皿として就業の場を確保するため、事業の開発・推進及び周知活動等に一層取り組んでいく必要がある。

※ 公益事業費率については、国の公益法人制度改革を踏まえ、平成20年度決算分から算出方式を変更しています。

※ 平成19年度から、旧河内・上河内町の同種団体と統合後の内容を記載しています。